

# 大村市立大村中学校 研究紀要

## 研究の全体構想

### 学校教育目標

心豊かで、自主性に富み、創造的で、未来を切り拓く生徒の育成

### めざす生徒像

- 自主：明るく元気で、自ら求めて行動する生徒
- 創造：進んで学び、考え、自ら未来を創り出す生徒
- 敬愛：思いやりを持ち、協調する生徒

### 研究主題

**生徒一人一人が「分かる・できる」学習指導の研究**  
～授業評価の活用と日々の指導の工夫を通して～

生徒自らが学び、「分かった・できた」と思える授業の実現及び学力の定着・向上

「授業の基本」の徹底  
日々の指導の工夫

家庭学習の充実  
授業外支援の工夫

授業評価、学校評価、学力・学習状況調査等を活用した分析・改善

### 【研究仮説】

授業の基本（めあての提示、ねらいを達成する工夫、活動、振り返り）を徹底するとともに、授業評価を活用して日々の指導の工夫、改善を重ねることで、生徒自らが学ぶ授業、生徒が「分かった・できた」と思える授業をつくることができるであろう。



# 授業の基本

## 1 授業のめあての提示

### ○ 本校が考える授業の「めあて」とは

- ・学習活動のゴール
- ・授業でめざす生徒の姿
- ・何について考えるのか
- ・この授業で何をするのか
- ・授業で何ができるようになればよいのか
- ・どんな方法を使うのか

### ○ 効果的な提示、タイミング、内容、伝え方等の追究

- ・問いやめあてが生まれる導入
- ・めあてに含む内容、表現
- ・分かりやすさ
- ・生徒が主体的に活動するための課題の提示

## 2 ねらいを達成するための工夫、活動する場の設定

### ○ 一人一人が主体的に活動する場の設定

1時間で多くのことを盛り込もうとせず、ねらいを絞り、それを達成するために有効で、すべての生徒が主体的に取り組める学習活動を設定する。

### ○ ねらいを達成するための中心となる発問や指示

適当な指示のタイミング、簡潔なことばや分かりやすい指示、発問の工夫を行う。教師が説明する時間を削減し、活動する時間を十分に確保する。

### ○ ねらいを達成するために適切な教材・教具の工夫

適切な教材・教具を準備することにより、生徒の興味・関心・意欲を高め、生徒の理解を助け、深める。

### ○ 学習形態の工夫

周りとは話し合う・教え合う、班活動、ペア学習等の協働学習をその活動の目的を明確にして設定する。



### ○ 生徒が一人で考える時間も大切な活動の場

生徒一人一人が考える時間を確保し、自己の考えを持たせることで、話し合いや学び合いを充実させる。個別の支援の時間の確保にもなる。

## 3 「振り返り」の設定

### ○ 「振り返り」とは

まとめとは異なり、生徒が授業で得た自分自身の学びや発見、新たに身に付いた力、達成感等を自分の言葉で表現したもの。振り返りを通して、実感した学習内容や生まれた疑問、新たな課題が、家庭学習や次回以降の授業につながっていくことを期待している。

### ○ 「期待する振り返り」の明確化

教師自身が期待する振り返りを考えることで、ねらいの更なる絞り込みや「めあて」、学習活動の内容の洗練につながる。



**授業のめあての提示** 生徒が課題意識や見通しを持てる「めあて」だろうか。

26年度  
提示の仕方、タイミング、内容、  
伝え方等について研究

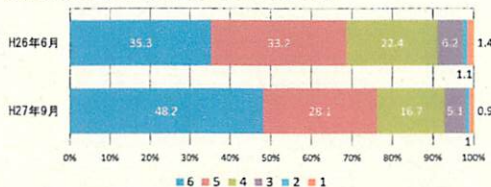
27年度  
導入部分で生徒が必然的に捉えられる  
ような「めあて」の提示の工夫

○「めあて」の提示の工夫

- ・「シダ植物ってどんな植物？」（1年理科）  
→「めあて」の答えが言えるようになることが本時の目標であり、「めあて」の答えが「まとめ」になる。
- ・「 $y = a \times x^2$ のグラフの特徴を調べ、3つ以上言えるようになるう」（3年数学）
- ・「色作りの達人になる！」のめあてに、口頭で「8色作れたら達人」（1年美術）  
→数値目標や時間制限があることで、活動が意欲的になった。
- ・「値を代入して、方程式の解を求めよう」（全学年数学）  
「等式の性質を使って、方程式を解こう」  
「移項を使って、方程式を解こう」  
→「めあて」の中に方法を示すことで、生徒が活動の見通しを持つことができ、ねらいを正しく受け止めることができた。

導入で本時の課題を提示し、見通しを持たせる実践を繰り返すことで、生徒たちの発言から「めあて」が設定される場面も増えてきた。そのことで、1時間の授業の目標や活動内容が生徒にとっても明確になっているものとする。

授業のはじめにその時間のめあてが分かっていますか。



**【変容ポイント】**  
6段階評価の「6+5」の割合が約76%まで増加した。  
「めあて」を明確に理解して、授業に臨んでいる生徒が増加した。

※6段階評価については、右下の（注）参照

「授業の基本」  
共通実践項目

指導と評価の一体化  
目標の明確化

**「振り返り」の設定** 生徒が学びを実感する「振り返り」だろうか。

○本校が考える「振り返り」

- ・「まとめ」ではなく、生徒自身の**学びの足跡**。  
「○○○は分かったが、□□□のところは分からなかった」も大切な振り返り。
- ・授業を終えて、**新しく発見したこと、気づいたこと、学習内容と今までの自分との関わりから気づいたことや新たに知りたいこと**などが挙げられるように指導したい。
- ・教師が生徒にどんな「振り返り」をさせたいかを考えることで、めあてを絞り込む、より適切な活動や工夫を検討するなどの**授業改善の一つの手法**にもなる。

○「振り返り」の例

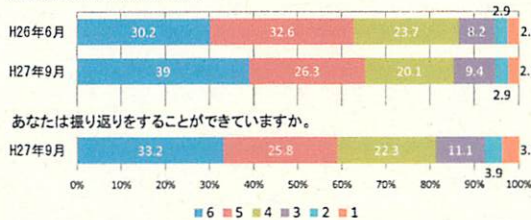
道のりの問題の方程式の作り方がよく分かりました。速さや時間を表や図にまとめると、方程式をつくりやすかったので、テストでも活用したいです。  
(1年数学)

以前ホットケーキを作った時、ベーキングパウダーを入れなかったら膨らまなかった。今日の実験でもそれが実感できたし、実験することで納得できて、覚えられたからよかった。  
(2年理科)

文の最後の方をちょっと変えるだけで、その文章がとて聞きやすくなった。僕たちは「書く」と「話す」のを気付かないうちに使い分けができていたのだと思って驚いた。そこがおもしろいなと思った。  
(3年国語)

昨日より上手に発音できたので、よかったです。この文を、覚えるくらいにまでスラスラ読めるようになりたいです。次回は音読テストなので、しっかり家で練習をしてきます。  
(1年英語)

授業の振り返りがありますか。



**【変容ポイント】**

方法や実施のタイミングは教科によって差があるものの、振り返りの設定は、全体として「6+5」の割合が約65%まで向上した。  
「書く」能力伸長のためにも記述内容が質的に向上するよう、一層の工夫を重ね研究していきたい。

目標の実現に有効な学習活動、学習方法、学習形態等の設定、不断の検証

**ねらいを達成するための工夫**

授業のねらいを達成するための工夫は有効だろうか。

- 教師自身の、本時の「ねらい」**「期待する振り返り」の明確化**
- ねらいを達成するために有効な**「学習活動」「活動する場」の設定**
- 学習活動をスムーズに行わせるための**「教師の手だて」の工夫**
  - ・教師が説明する時間の削減、生徒が活動する時間の十分な確保
  - ・教師の発問・指示の精選
  - ・生徒の中に「問い」が生まれる導入、納得して終わる終末
  - ・一人で考え、自分の考えを持つための時間の確保
  - ・学習方法、学習形態の工夫、協働学習の設定
  - ・ICT機器の効果的な活用（課題の提示、資料提示、実物投影）

具体的には

**活動する場の設定**

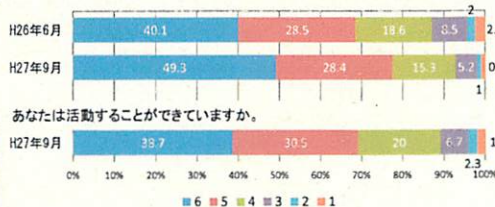
生徒が自ら意欲的に活動しているだろうか。

- 活動とは  
教師の説明を聞くだけでなく、「自分で考える」「制作する・実習する」「観察・実験する」「作業をする」「練習する」「教え合う」「話し合う」等。

**【変容ポイント】**

活動場面の認識は、「6+5」の割合で約77%まで増加した。活動した実感を得られない生徒は、依然として10%以上いる。

活動する場がありますか。



あなたは活動することができますか。

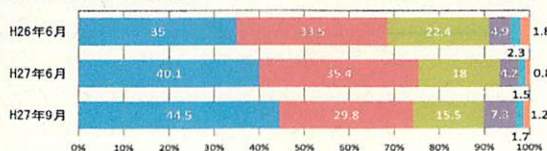


（注）生徒による授業評価

全授業者が、受け持つ学級から1学級抽出し、「6あてはまる」から「1あてはまらない」までの6段階選択方式で、授業アンケートを定期的の実施した。本紀要では、それらを合算したデータを用いた。なお、1年次の取組を踏まえて、2年次には、生徒自身の状況についての設問を増やした。



授業は分かりやすいですか。



**【変容ポイント】**

「授業は分かりやすいですか。」の「6+5」の割合が約74%まで増加した。  
「授業の基本」共通実践項目を徹底した取組による総合的な成果と考えている。





# 授業外の学習支援

## 1 「大中学び隊」の発行

家庭学習の進め方や、学習に関する情報、ノーメディアデーの取組などを掲載し、生徒の学力向上や家庭学習の習慣化をめざして、研究便り「大中学び隊」を発行している。

# 大中学び隊

平成27年5月21日(木)

発行：大村中学校

学習支援部

## これから学習便りを発行します

大村中学校では「学習」に関するお便りを発行しています。題名は「大中学び隊」です。勉強ができるようになりたいという願いは、みんな同じだと思います。

今回の便りでは、生徒や保護者の皆さんに、家庭学習の意味と家庭での効果的な学習方法などについて、提案をします。

## 家庭学習の意味

大人になっても自ら学んでいくための『根っこ』。これを、よりしっかりとしたものにするためには、中学校時代に、「家庭での学習習慣をつけること」が、大切です。

中学生のうちには塾などで強制的に学習することもあるでしょう。また最近では、高校になっても塾へ大学生になっても通っていた予備校へ通う人がいるそうです。しかし、いつまでも他人に頼ってばかりでは自分で学

## 2 「しゅうかタイム」の実施

授業で学んだ内容を家庭学習につなげる時間として、帰りの会の前に10分間の「しゅうかタイム」を設定している。

テスト前の1週間程度全校一斉に実施したところ、家庭学習の時間が増加するなど良好であった。毎日の家庭学習習慣をつけるために、実施する日を増やし、今後も検証していきたい。

全校生徒が一斉に自分の学習に向かう良い時間になっている。



## 3 「ノーメディアデー」の実施

家庭学習の取組を妨げる大きな要因の一つに、メディアの使用がある。そこで、年に数回、2週間程度の「ノーメディアデー」を設定している。実施の際は、生徒だけでなく、家庭への啓発を図るため、取組状況と感想を家族で記入して提出してもらい、実施状況を把握している。

### 【保護者の感想】

- ・ノーメディアで生まれた時間で、学校の事など、色々な会話ができて良かった。
- ・本を読んだりして、ゆっくりとした時間を過ごすことができました。

### 【生徒の感想】

- ・今までは、9時以降にもテレビを見るが多かったけど、ノーメディアデーで見ないことにだんだん慣れてきました。これからも続けていきます。



# 成果と課題

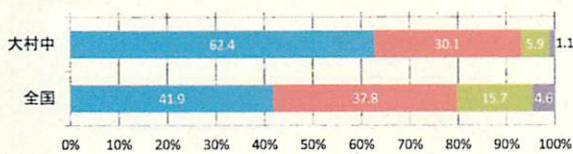
## 1 研究の成果

全教科において、「授業の基本」共通実践項目を基に授業づくりの研究に取り組んだ。教師は「本時のねらい」やゴールの姿を、生徒は「この1時間に何をどのように学ぶのか」を明確に把握して、日々の授業に臨むようになってきた。また、ねらいを絞り込めたことで、その達成に有効な「活動」、指導の工夫を考えやすくなった。特に「活動」の中では、ペア学習や班活動等の意図的な位置付けにより、自分の考えを持ち、それを積極的に伝えたり、認め合ったりする場面が多く見られるようになった。「振り返り」については、毎時間の設定が難しい教科があるものの、振り返りの必要性は浸透し、その時間に場を設けなくても各自で振り返りを記入する生徒も多くなっている。

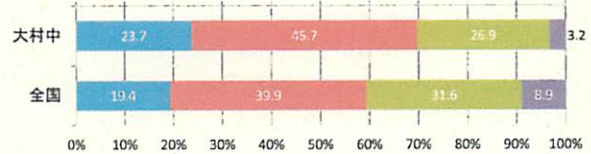
▷全国学力・学習状況調査「質問紙調査」の結果から（年度を示していないグラフはH27年度のデータ）

○1、2年生の時に受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

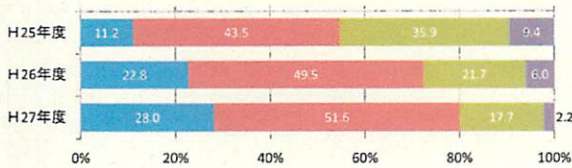
■当てはまる ■どちらかといえば当てはまる ■どちらかといえば当てはまらない ■当てはまらない



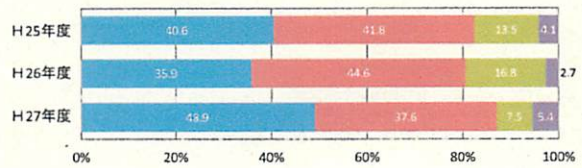
○1、2年生の時に受けた授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか。



○1、2年生の時に受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか。



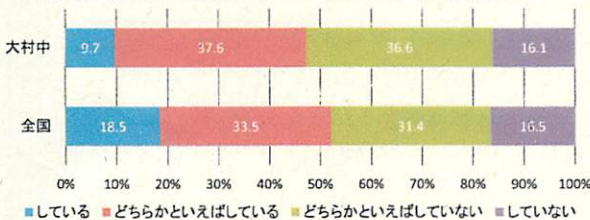
○1、2年生の時に受けた授業では、自分の考えを发表する機会が与えられていたと思いますか。



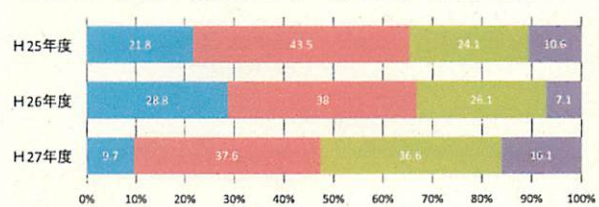
## 2 今後の課題

▷全国学力・学習状況調査「質問紙調査」の結果から

○家で、授業の復習をしていますか。(H27年度)



○家で、授業の復習をしていますか。(大村中経年)



全国学力・学習状況調査の結果を見ると、平成26年度に国語科ではほぼ全国平均、数学科ではやや上回っており、家庭学習の取組もある程度良好であった。しかし、平成27年度は国語・数学両科の結果は全国を下回り、同時に家庭学習の取組に課題が見られた。これらのことや日々の実践を踏まえ、学習内容未定着の要因として、家庭学習の量と質、取組状況が大きく関係しているものと分析している。

今後は、「授業の基本」共通実践項目を基にした授業づくりの研究を一層進めるとともに、授業外の学習支援の充実を図る必要があるものと考えます。具体的には、授業の終末に「分かった・できた」と実感したことをその日のうちに再現し定着を図る工夫として、「しゅうかタイム」の効果的な運用、各教科の課題や宿題の与え方などの研究を推進していきたい。